

会 議 録

◇詳細—企画調整グループ 電話03-4566-2511

附属機関又は 会議体の名称		平成28年度 第1回総合教育会議
事務局(担当課)		政策経営部企画課
開催日時		平成28年4月27日(水) 14時00分～15時30分
開催場所		教育委員会室(庁舎8階)
案件		(1)「学ばせたい 通わせたい 教育都市としま」の実現に向けて (2)平成28年度教育大綱について
公開の 可否	会議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会議録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委員	高野区長・三田教育長・菅谷委員長・藤原委員長職務代理者・樋口委員・北川委員
	事務局	政策経営部長・教育部長・企画課長・庶務課長・女性にやさしいまちづくり担当課長・学務課長・学校施設課長・指導課長・教育センター所長・統括指導主事・企画課企画調整グループ・庶務課庶務グループ、教育政策担当

○企画課長

それでは定刻となりましたので、ただいまより、平成28年度第1回豊島区総合教育会議を始めさせていただきます。本日、傍聴者はございません。

初めに、本年度の第1回の会議でございますので、総合教育会議の委員の皆様をご紹介します。

<委員及び事務局職員を順次紹介>

○企画課長

それでは開催に当たりまして、高野区長よりごあいさつをお願いいたします。

○高野区長

今日は各委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、本会議にご出席を賜りましてありがとうございます。

この総合教育会議が設置をされましてから、早いもので、もう1年が経とうとしているわけですが、この会議の目的は、区長と教育委員会が緊密に連携して教育行政を進めることにあるわけであります。

昨年は、豊島区の教育に関する総合的な施策を定めた教育大綱の策定、特に学校トイレについては教育委員の皆さんから非常に強い要望がありまして、数年にわたって現場の要望を色々聞いておりましたが、決定的だったのは教育委員の皆さんからこのトイレの問題は、是非とも解決をしてもらいたいという強いご要望をいただいたことです。それからできる限りこのトイレの洋式化に向けて、いろんな方面から子供たちが不登校にまで繋がるというようなお話を聞いたりなど、切々と訴えられまして、それを受けまして、予算化いたしました。当初10年の計画を3年にとということで、この3年以内には必ず完成させるというような形で実現させるという、これも総合教育会議の大きな成果ではないかと思われまます。

私自身が常に危機感をもち、いかに発信するかについての大切さを感じております。

豊島区が消滅可能性都市と指摘されたのが、早いもので2年前でありますけど、あのときいろんな対策等々を講じて持続発展都市へと打ち出しましたが、私は戦略の転換がまさにこのときではないかと思っております。

その対策の1番目にかかげたのが女性にやさしいまちづくり、そして高齢化への対応、地方との共生、さらには日本の推進力。まさにこの日本の推進力は、国際アート・カルチャー都市へという大きな豊島区の将来構想といたしますか、都市像を示すことができたわけでありますので、本当に大きな転換期だと思います。

このような取り上げ方によってマスコミ等にも注目をしていただきまして、次々の施策に対して、大変な評価と同時に、周知やニュース性を持った形の中で取り上げていただ

き、大いに注目されましたので、それに応えていかなければという強い思いでございます。

その中で女性にやさしいまちづくりについては、4月1日から民間より宮田担当課長を起用しました。今日もこの席に同席をさせていただいておりますけど、女性が輝くまちづくりを進めていく上で、教育との連携は大変重要なものではないかと思っております。

しかも、教育委員会の教育委員の皆様も新たに3人の女性の委員が就任をされたわけでありまして、議会の議決を得なければならないわけでありまして、今回ご提案いたしましたら、全党が異議なく、ご賛同をいただいたわけでございます。

先ほどお話ししましたが、今回は宮田担当課長にも出席をさせていただいております、「学ばせたい 通わせたい 教育都市としま」の実現に向けて教育委員の皆さんと活発な議論を行い、今後の課題など教育委員会と共通認識のもとで区と教育委員会が一体となって教育行政を進めてまいりたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

ここで議事に入る前に宮田課長から教育に対する思いや、あるいは今後の取り組みについて、お考え等々あればお話いただければと思います。

○女性にやさしいまちづくり担当課長

4月1日より女性にやさしいまちづくり担当課長を拝命しました宮田と申します。よろしくお願いいいたします。

決意表明ということですが、教育の主役はあくまで子供でありますけれども、その保護者という立場からの女性の視点といったものはこれからの学ばせたい、通わせたい、そして住みたい、住み続けたいといったまちづくりにぜひ活かしながら連携させていただきたい。教育を大きな柱として取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいいたします。

○高野区長

なお、宮田課長には横断的に区長部局のみならず、教育及び教育委員会といろいろな意見交換も含めながら、連携をとっていってもらいたいと思っておりますのでよろしくお願いいいたします。

○企画課長

それでは、議題に入らせていただきます。会長であります、高野区長に議事進行をお願いいたします。

○高野区長

議題1の学ばせたい通わせたい教育としまの実現に向けて、これまでの取り組みについて事務局より説明をお願いします。

○庶務課長

平成28年度の第1回総合教育会議の提案事項についてご説明申し上げます。

豊島区はこれまでの「街が変わる、街を変える」という施策から、国際アート・カルチャー都市構想へと発展させ、女性にやさしいまちづくりを進めております。

豊島区教育委員会は、高野之夫区長との強力な連携の下、「学校が変わる、学校を変える」という意気込みで教育の質向上に取り組んでまいりました。本日はこれまでの「教育都市としま」の取り組みの成果を基に、「学ばせたい 通わせたい 教育都市としまの実現」に向けての課題について提案申し上げます。

文部科学省は、平成30年度までに「生きる力と確かな学力の向上」を達成するよう学習指導要領で示しております。豊島区教育委員会では、この指針を具体化するために、教育ビジョン2010及び2015の実践に努め、「生きる力」と「知・徳・体の調和のとれた教育の質の向上」を目指してまいりました。このビジョンを具体化するため、小中一貫教育連携プログラムをはじめ、学力向上施策及び能代市との教育連携の展開、ふるさと学習プログラムの具体化、学校図書館の充実や、21世紀型スキルの定着、アクティブラーニングの目指す教育情報化ビジョンの具体化として、学校ICTの整備推進事業を進めてまいりました。

また、がんに関する教育や歯と口腔の健康づくりなど、全国に誇れる豊島区オンリーワンの教育として注目を集めてまいりました。こうした先進的な取り組みは、学力の向上をはじめ、道徳教育の定着、いじめや不登校の未然防止の上で大きな成果を上げてきました。

以下この特徴について申し上げます。

教育施策の最大の課題は、社会の急激な変化や核家族化・少子高齢化社会の急激な変化の中にあって、「小一プロブレム」及び「中一ギャップ」を解決し、幼児・児童・生徒の学びと育ちの連続性を目指す小中一貫教育連携プログラムを推進できる学校教育の構造改革にありました。

そこで本区では、小一プロブレムを解消するために、小学校入学前にアプローチカリキュラムを、入学後にスタートカリキュラムの実施に努めています。また、中一ギャップを解消するために、中学校単位の小中学校が相互連携・交流して、接続のためのプログラムを全校で実施して6年目になります。

学校教育法が改正され、平成28年4月より、「義務教育学校」という新しい学校制度が認可されるようになりました。本区におきましては、学校施設用地の特色から、義務教育学校ではなく、全小中学校が同一歩調で小中一貫教育連携プログラムの成果を生かした小中一貫教育を目指してまいります。

学ばせたい 通わせたい教育とは、国や東京都の教育指針を踏まえつつ、いかに幼児・児童・生徒や保護者・地域の教育ニーズに対応していくかが重要であると認識しております。そこで、豊島区教育ビジョン2015を作成するに当たって実施した「学校生活における小中学生・保護者の不安因子」を基に、教育行政に求められるニーズについて考えてきました。

小中学生の学校生活における悩みや不安の第一位は進学で小学生18%、中学生38%。第二位は勉強で小学生15%、中学生34%と学年進行に伴って、学力や進学のことを不安になっていくことがわかります。塾や習い事から来る多忙感、そして友だち関係や部活などの悩みも大きな不安になっていることがわかります。そこで、教育委員会ではこうした不安を克服し、自信を持って学びがいや生きがいを感じることができる学校づくりに基軸を置いて施策を展開してまいりました。

まず重要教育課題の第一の柱である学力向上施策について申し上げます。

さる4月19日に今年度の全国学力調査が行われましたが、昨年度の全国学力調査の結果を例に申し上げます。

学力テストは4月に全国一斉に小学校6年生及び中学校3年生の結果が平均点で算出されております。基礎基本としてのA問題、応用としてのB問題で構成されておりますが、本区の特徴を算数・数学の例で申し上げますと小学校は全国1位の秋田県に次ぐ順位につけ、全国及び東京都の平均を大きく上回っております。中学校3年生の数学を見ましても、第3位につけるといふ健闘ぶりです。さらに、他の問題を見てもすべて全国10位以内にランクするというこれまでの最高の到達点に至っております。

こうした学力向上の背景を平均点の推移で分析しますと、区独自に行ってまいりました小学校3年生から中学校3年生までの5教科、悉皆による全国規模の学力調査、及び調査結果に基づく分析・授業改善の毎年の努力の成果があらわれたものと受け止めております。また、教育委員会では学校と一体となって児童生徒一人ひとりの経年変化とその伸び幅を学力向上の基準と定め、絶対評価の優位性を活用してきたことが成果につながったと考えております。

区独自の学力調査による達成率を示すグラフをご覧くださいと、目標に対してどれだけ達成できたかという観点から見て、平成25年度から27年度まで、全教科で概ね向上していることがわかります。さらに、26年度を見ますと、小学校理科、中学校社会科が若干下回っており、今後も改善が必要な課題であると受け止めております。

次に、第二の柱として、安全・安心で豊かな人間関係を目指す学校づくりへの取り組みについて説明いたします。

豊島区は高密都市で交通の便に恵まれた商業住宅地区であると同時に、事故やけがが頻発する地域でもあります。教育環境の安全・安心の確保は極めて重要であり、平成23年度より本区が進めてきた「セーフコミュニティ」と連動して、「インターナショナルセーフスクール」に取り組んでまいりました。平成26年度は、朋有小学校、平成27年度は富士見台小学校が認証取得しており、池袋本町小学校と仰高小学校が平成28年度、池袋第一小学校と池袋中学校が29年度の認証取得に向けた取り組みを進めると同時に、昨年の総合教育会議において決定した全小中学校のセーフスクール化を目指しております。セーフスクールの認証を取得した朋有小学校では、校内のけがの減少が数値としてあらわれております。平成24年と比較いたしますと、平成26年は約50%もけがが減少

しています。また、今年の2月には新庁舎の議場で、全国の市町村が参加してセーフスクールサミット in 豊島を開催し、朋有小学校、富士見台小学校の認証式を行ったほか、各自治体が研究の成果を発表し、情報交換を行いました。

学び続けたい学校には、共に学びあう友だちと心の居場所の有無が重要です。アンケート調査にもありますように、幼児・児童・生徒にとって人間関係の良し悪しは、いじめや不登校の原因になることから、その防止策は極めて重要です。

そこで本区では、国が定めた「いじめ防止対策推進法」に基づき、平成26年10月に「いじめ防止対策推進条例」を策定し、いじめの早期発見、早期対応に取り組んでまいりました。本区では、いじめ防止対策委員会を設置し、心理検査ハイパーQ Uを実施して予防対策に重点を置いております。いじめ問題対策委員会は年4回実施し、いじめ発生件数に対して90%程度の解消率を維持しております。今後の100%の解決を目指して努力してまいります。

また、小中連携校においてハイパーQ Uの調査結果を分析し、全教職員共通理解の上に立った系統的指導を行っております。指導の基本は要観察グループにあたる要支援群を減らし、満足群を増やしていく取り組みが重要であり、6月と12月、年2回の検査は児童、生徒の変容について指導過程の成果が確認でき、いじめや不登校の予防的対応に大変有用であることがわかってまいりました。

次に、第三の重要課題の柱として、学校の改修・改築について説明いたします。

まず、去る豊島区議会第1回定例会では、「学校トイレ3年間で全洋式化」という緊急改善事業が大きな注目を浴びました。毎日のストレスを解消して、清潔で安心できるトイレの大改修を行い、都内唯一の環境整備を行ってまいります。

次に、学校の計画的な改築についてご説明いたします。

グラフにありますように、本区では、高野之夫区長の英断で全小中学校の耐震化の完了、そして30校中8校の改築が進んでおります。また、3校が今後改築を予定しております。学校改築のコンセプトとして、既存の樹木の保存や外溝や壁面、屋上の緑化、ビオトープの設置など、地球環境への負荷を低減するエコスクール化を目指しています。

用意した写真は、池袋本町地区併設型小中連携校ですが、職員室を小中共用とし、昇降口の動線を体格差のある小・中に分離させ、またプールや学習情報センター、ランチルームや家庭科室、多目的室は共同で使う「シェアリングコンセプト」を導入して、文字通り、小中学生の協働学習を期待した環境としております。

さらに、学校図書館を学校の校舎の中心に位置づけ、アクティブラーニングの基盤整備として図書とタブレットパソコンを活用して学校情報センター化を目指し、通常教室には電子黒板や校内無線LANを駆使してICT活用の授業を展開できるよう整備しております。

本年12月に竣工予定になっております池袋第三小学校は、2階にベランダを回すことによって、運動面積を広げ、通路・観覧席として活用できるように工夫しております。

また、校舎の離れには子どもスキップや学童保育、多目的集会室を配置しております。災害発生時には食料の備蓄や体育館の冷暖房化、マンホールトイレやかまどベンチ、太陽光パネルによる発電など、防災の拠点としての機能を持たせています。災害時には防災の拠点として機能できるようにいずれの学校も設計されております。

これまで重点課題について説明してまいりましたが、高度情報化、知識基盤社会の進展により、「小学生の65%は、今は存在しない職業に就く」と予測されています。本区では、21世紀の教育課題に十分応えられる人材育成に力を入れ、アクティブラーニングの全面展開を見通して児童・生徒に「21世紀型スキル」の定着を目指す取り組みを東京大学、マイクロソフト社、レノボジャパンと共同で展開してまいりました。

また、教育課題を実現して教育都市としまに魂を注ぎ込む教員の人材こそ教育改革の成否を左右すると受け止め、事業改善と指導力向上を目的に能代市との教育連携による人材派遣、中学生相互の交流体験を行っております。

また、全幼小中学校に3年に一度の研究奨励発表会を義務づけ、教員の授業力と指導力の向上に全力を注いでまいりました。豊島区で生まれ育った子供も豊島区に移ってきた子供も、ふるさとの歴史や文化、特色に学び、ふるさを誇れるように、「ふるさと」と日本を愛する心情が世界の国々と協働できる資質や能力の育成につながると確信し、豊島区ならではの「としまふるさと学習プログラム」を一層充実させてまいります。

以上をもちまして本日の課題提案といたします。

○高野区長

「学ばせたい 通わせたい 教育都市としま」の実現に向けての課題について説明がございました。この課題に対するご意見等いただけたらということで大変恐縮ですが、菅谷委員長から順次、ご発言をいただければと思います。

○菅谷委員長

こうやってみると、豊島区の教育は本当にいろんなことをやっているというのがよくわかると思えました。その中で幾つか課題もあるのかと思いますが、大体はよろしいのではないかと思います。

その中で、確かな学力というのが最重点課題かと思えます。学校生活における小・中学生、保護者の意識といったアンケートの中で、進学、勉強というのは皆さん相当不安に感じているんですね。

その不安を、教育現場の中でどのように軽減していくかが一つ課題なのではと思います。特に中学校では、相当の方が勉強、進学についての不安を持っている。これを少しずつでもいいから減らしていけば良いのではと思います。それから、学力調査の結果について見ると、数字的には非常に豊島区は頑張って成績を上げています。しかし、区民の方々が、豊島区の子供たちが頑張っているかということをごの程度理解されているのか

ということで、もう少しPRしてもいいのではないかと思います。この辺は保護者の立場を良く知っておられる委員もいらっしゃいますので教えてもらえばいいかと思います。

次に、インターナショナルセーフスクールについてです。現在、幾つか新しく取り組んでいるところもありまして、最終的にはインターナショナルセーフスクール認証をすべての学校で取ろうという、非常に大きな目標を持ってやっておられるわけです。このインターナショナルセーフスクールの取得に当たって私が一番感じたことは、学校と地域との関係が非常に密になって、いわゆる学校に対する地域の方の関心が非常に大きくなるということがあり、学校運営の中でも非常に有効な方法なのではという点です。実際、昨年の認証の内容を見たときにそのことを非常に感じました。

それからもう一つは、インターナショナルセーフスクールの中で子供たちが、様々な身の回りのことから問題を考えていくというアクティブラーニングの力を、取得を通してはっきりと身に付けることができてるので、その点についても、取り組みは非常に評価できるのではないかと考えています。

次に、いじめ問題に対しても今、豊島区は非常に積極的に対策をやっております。それでもなかなかいじめそのものはすべてなくなるわけではないのですが、とにかくいじめに対する取り組みについては、教育委員会として本当に力を入れていかなければならないということが非常にはっきりしていると思います。その中でもハイパーQ Uの成果についても先ほどわかりやすい説明をいただきましたけども、今後ともこれを利用していきたいと思っています。

次に、昨年総合教育会議で一番実際的な成果をいただきました、トイレの改修ですね。これにつきましては保護者の方からも非常にご要望が強く、要望も前からあったということで、これについては限られた予算の中で、非常に有効な予算の使い方で行ったかと思っております。私としては本当に区長さんに大変感謝しております。どうもありがとうございました。

また、計画的な学校改修が続いておりますけども、それぞれ非常に特色ある学校を作っておられるということです。これは相当長く続く改修だろうと思っておりますけども、新たな学校がどんなふうになっていくのか、また、どういう学校が出来るのかなというのは非常に楽しみにしております。

学校の教育連携、能代市との教育連携についてはやはりお話ししたいと思います。昨年、教育委員全員が能代に行きまして、実際の現場を拝見してきました。そのときの能代市の先生方や授業について、豊島区の授業とどういう点に違いがあるのかについて実際に感じてまいりました。

私は能代市の授業は非常に集中していると感じました。子供が非常に授業に集中している。豊島区も随分頑張っていると思っておりますけれども、能代市がもう一歩進んでいるのではないかと感じました。

しかし一方、豊島は区民の方の生活のバックグラウンドが非常に多彩なわけですね。

そういう都市型の中で授業以外のいろんなことで、豊島区が非常にたくさんものを取り入れてやってくということは能代市にない部分で、すごく良い点だと思いました。

○高野区長

それぞれ委員の方からご発言いただいたものはまとめて最後に事務局あるいは教育長等々からお答えをさせていただきますので宜しくお願いします。

それでは次に藤原委員お願いします。

○藤原委員長職務代理者

保護者として子供に良い教育を受けさせたいという強い願いは、豊島区の保護者の方、皆さんお持ちだろうと思います。そのためには、教育の質の高さ、それは極めて重要だというふうに思います。今、プレゼンの内容をお聞きしまして、私立学校に行かせる保護者が多い中で、豊島区の公立中学校、そして幼稚園の質の高さをどう担保するかということの内容が凝縮されていたという印象を受けました。豊島区の公立学校で教育を受けさせたい、そう感じさせる様々な教育の施策が織り込まれていましたので、自慢できるとそんなふうに思った次第です。

特にそういった点を感じられましたのは、やはり教育ビジョンの中身です。能代市との教育連携とかふるさと学習プログラム、そして、歯と口腔の健康づくり、それぞれがすべて学校で着実に行われているということ、そしてその内容は、なぜがんに関する教育なのかとか、なぜ歯と口腔衛生なのかとか、あるいは、ふるさと学習プログラムなのかという、そういった教育の意味とか意義が各学校で理解されて、きちっと計画的に進められていることが極めて重要だし、それが子供たちの心身の成長にも大きく、影響していくと思っています。

そういった教育を進めることで子供たちの心も体も健康に育ち、さらに良い教育に直結していると思った次第です。

それと、小中学生の保護者の不安因子として、学習のことや進学のことを先ほど取り上げられていましたが、やはり子供にとって学習がわかるということはとても大事なことです。できるようになり、内容がわかることは、自分の自信にもつながりますし、保護者にとってもとてもうれしいことです。そのためには、各学校で子供たちの学習状況をきちんと把握して、子供たちの苦手な部分や、あるいは得意な部分に焦点を当てながら授業の改善計画を立てることがとても大事ですし、そのことも今、各学校が一生懸命取り組んでいて、その成果が上がっていることが学力調査の結果からも知ることができました。

あとは、学力調査の結果の中で、良くやっている伸び率が高い学校がどういうことをやっているかを、他の学校にも是非知らせてもらいたいと思います。他の学校からやり方を学んで、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。

そのためには、校長先生のリーダーシップがとても重要だと思いますし、いろいろな研

修会でそういったことは多分取り上げていると思いますけれども、さらに充実させて欲しいと思っています。

あとはこれからのことですが、予習とか復習とか、そういったことの重要性にも目を向けながら、授業の改善を図っていただきたいと思っています。やはり子供たちが疑問を持って、なぜ今日の学習なのかという、そのような問題意識を持って学習に取り組むことが、学力向上のポイントかなと思っています。

ハイパーQ Uのことが先ほど取り上げられていました。基本は子供と先生の信頼関係ですが、子供同士の信頼関係もとても大事だと思います。ある意味心が満たされていれば、人に対しても優しくなるというふうに思っていますので、家庭での教育も含めてですね、学校でまたこれからもハイパーQ Uを活用しながら、いじめの起こらない、そして心が育つ教育をさらに進展させていただきたいと思っています。

また最後ですが、トイレの改修は素晴らしいことだと思います。高野区長の英断で3年間で洋式トイレにできるようになったことはとても嬉しいことですし、これは全国に誇れる内容かなというふうに思っています。

これからも豊島の教育に注目しながら、さらに、前進させていければと思います。

○高野区長

ありがとうございました。それでは引き続き、樋口委員お願いします。

○樋口委員

これからの21世紀を担うのは、私は今学んでいる子供たちであると思っています。「持続発展都市」豊島の担い手は、今の小学生や中学生である、というこの観点を大事にしたいと思っています。

この子供たちが、自分が豊島区の公立小学校や中学校で学んで良かった、だから自分が大人になったときに、豊島に住み続けたい、また豊島の小学校に子供を通わせたいと、そう思えるための視点は何だろうと思いつつ、今日のお話を聞かせていただいております。

私は大きく二つに括りました。

一つは、先を見通した学び続ける心や態度とそれからスキルであろうと思っています。こうしたことが、今ご説明のさまざまな施策の中に盛り込まれていると勿論思っています。

もう一つは、豊島区って良いんだなあという実感をどれだけさせられるか。同時に豊島区にいて世界が身近になり、僕は世界でグローバルに活躍してみたいなというような、そんな思いを豊島区にいたから切っ掛けが持てたんだと、中学生の時に思うことができたなら大変素敵であろうなと思いますので、こうした二つの視点を私は、委員としてこれから持ち、一緒に努力をしていきたいと思っています。

これが大きなところですね。具体的なことで何点か。

1点目の学力ですけれども、藤原委員と同じように、何で学力が上がったのかというところは分析なさっていると思うので、その理由をもっと明確に打ち出していったほうがよいと思います。

「教師の授業力が上がったからですよ」と仰りますが、では授業力とは何であるか、どういう部分が豊島区の先生たちの研修によって上がったのかいうところを大事にしたらよいのではないかなと思いますし、ここに、家庭教育を少し仕掛けていくのもおもしろいのではないかと考えています。

それから二点目には、インターナショナルセーフスクール、これはまさに21世紀型教育の大きな視点になると思いますので、ここにキャリア教育なども少し加えていったらいかがかと思いました。

それから3点目は小中の連携です。私の体験上、やはり教える大人が同じようなことを一緒にやっていくという、共同意識がないとこれは成功しないと思っております。そうしたことを、例えば先ほどの説明では、池袋の場合は職員数が一緒ですよとおっしゃっていましたので、ここはすごく可能性があるところだなと思っております。

それから、いじめの解消にもつながる、衛生面にもつながるというトイレの改修につきましては、私も本当に区長さんの英断に敬服しているところでございます。子供たちが学校に行くのがますます楽しくなるというふうに思っております。どうもありがとうございます。

○高野区長

それでは、北川委員をお願いします。

○北川委員

私は子供が豊島区の小学校、中学校で学びまして、なぜ私立とか国立とかいろいろ選択肢もある中で、子供を小学校中学校とも区立に通わせたかったかといいますと、核家族化している今の家族形態の中で地域に子供を根づかせたい、また大人になってから戻ってくる場所をつくってあげたいと思ったのが一番です。

高校になったら豊島から外に出ていってしまうであろうということは十分考えられていることですが、それを中学校まで子供たちの思春期、いろんな自我が確立する時期まで地元で学べる、友達がすぐ近くにいる、地域の方々に見守られて自分は育っているんだということを実感してもらいたかったというところがあります。

保護者の考えとして、子供が朝、行ってきますと笑顔で出て行って、ただいまと元気に家に戻ってくるまで、安全で安心な学校で学んでもらいたいというのはだれもが共通してもっていると思います。

その点で、学校という地域の核となる部分が、環境の面でも、子供たち人間関係の面でも非常に充実した時間を送れるというのはとても重要な部分です。

ですから、先ほどのトイレの改修に関しましても、実際私の子供が通っていた時は、夏

場はトイレの臭いが本当にひどくて、そこで給食を食べることが本当にかわいそうでした。それが改善されるということは、精神的な面でも非常に明るい知らせだなと思って、本当にありがたく思っております。

また、ハイパーQ Uのことで、たった1年間の間でも子供たちはどんどん成長してきますので、年1回とか何年間に1回ではなく、年2回という短いスパンで、何度も繰り返して子供たちの様子を見て、小中連携して先生方が共通して問題意識を持っていただけるというのは非常にありがたいことだと実感しております。

また、学力向上の面に関しては、昨年度から放課後子ども対策の部分でも、小学校のほうでは、学習をフォローする講座などを行い、中学校のほうでも数年前からチューター制度で水曜日のトライアル講座などを行っています。そういったところでも豊島区は、親の見ていられないような時間帯でも、教育行政のほうで子供たちの学力向上にもっと力を入れましょうという方向が非常によく見えてきております。

実際、私も放課後子ども教室の運営に携わっておりますけれども、子供たちが本当に一生懸命勉強しております。この体制をぜひ続けてあげたいなと思っております。

豊島区のオンリーワンの教育として、がん教育や、口の中の口腔に関する衛生面の教育というのがありましたけれども、子供への教育というのは、子供そのものにこういうことを学習してもらおうというものと、家に帰って子供から大人に伝えてもらうという二つの意義があると思うのです。

各家庭で今日学んだことを話すことによって、大人も気づきがあり、子供への一方通行ではなくて、それがどんどん広がっていくという大きな意義があると考えております。

子供の教育が大人に伝わるというのは、例えばがん検診というのは大人はちょっと時間がないからとか、そういう自分の都合で後回しにしていたものが、子供から言われて気付くことっていろいろあると思うんですね。

そういうところを豊島区が率先してやっているというのは、目新しいだけでなく、重要なことなんだと、そこについても実感いたしました。

先ほどの樋口先生からも先を見通すということの重要さのお話がありましたけれども、まさに先を見通して、豊島区の教育ビジョン2015を策定いたしましたので、どんどん力を入れてこれから展開していただきたいと思っております。

○高野区長

どうもありがとうございました。これらについてのお話に事務局及び教育長等々へは、最後にいろいろとお答えをお願いしたいと思います。

今日の議題は2つありまして「学ばせたい 通わせたい 教育都市としま」の実現に向けてと平成28年度の教育大綱ということでありまして、今、菅谷委員長をはじめ新しく就任なされた各委員のそれぞれの今日のプレゼンの中の感想も含めて、ご意見を頂戴いたしました。次の議題に入る前に宮田課長の方で何か感想でも何でもよいので、是非ご発

言があればお願いします。

○宮田課長

はい、住むまちを選ぶ際に、特に保護者の視点ですとやはり通わせたい学校があるからそのまちに住みたい、私立の人気校というのはたくさんありますけれども、その区立、公立の学校に人気校を抱えるというのはとても区にとって誇らしいことですし、区外にとっても大変なアピールになると思っております。その中で、いろいろご説明いただいた中で豊島区からというか、そういったものにもうちょっとメリハリをつけるというか、多分たくさんのもっとカラーを尖らせられるようなものがたくさんあると思っております、いろんな要素はあるかと思うんですが、その中で先ほどの学力が非常にポジティブな良い結果が出ていまして、その因果関係というか、ICT教育とかいろんな投資がされている中で、授業力といったそういったソフトの部分と、いろんな投資をしているそのハードの部分、そこはきちんと費用対効果みたいなものとか、あと因果関係といったものをきちんと示していければ非常にいいのかなという感想を持ちました。

○高野区長

学力がこんなに全国の順位の中で高いですね。全国の順位の中で10位以内に全部入っているんですね。これは、本当に画期的なことなので私はもっともっと宣伝していいのではということをお話しており、勿論いろんな形で発信しているみたいですけど、その発信力がやっぱり弱いのかな、ということでこの辺は宮田課長に今までいろんな経験をした中で、発信力についてアドバイスいただきたい。

こんな素晴らしい成績ですが、こちらは全国のレベルですね。これを見ますと全国第2位なんてあるんですよ。

このような形をみると、今、おっしゃったように検証しながら、いろいろと実施していくということを基本にしながらいかに発信をしていくか。教育委員会では自慢していくのを遠慮するのもかもしれないけど、区長部局の方でどんどん宣伝していいのではないかなと思います。そんな思いもしました。また後ほどいろいろとご意見を交換したいと思います。

それでは、次の項目に入らせていただいて、皆さん方からご発言いただければと思います。事務局より説明をお願いします。

○庶務課長

お手元の豊島区教育大綱の案をお取り上げください。

ページをおめくりいただきまして、2ページをご覧ください。平成28年度の重点施策でございます。これは27年度に引き続きまして、新たに加える部分についてご説明いたします。

まず、(1) 番からトイレ緊急改善推進事業でございます。これは、先ほどご説明させていただきましたが、和式のトイレを洋式化したしまして、清潔で明るく入りやすいトイレを整備いたしまして、快適な学校環境を整えてすべての区立小・中学校のトイレ改修を3年間で集中的に行う事業として重点施策として位置づけました。

こうした重点施策につきましては、区長部局と教育委員会が緊密に連携を図り、取り組んでいる事業について重点施策として位置づけてございます。

それから、昨年度に加えまして新たに、(6)「確かな学力」の育成を加えております。これは、先ほどお話がありましたように重要教育課題、柱の一つとしてとらえておりまして、先ほどご説明いたしました区独自の学力調査の結果の経年変化をもとに、児童、生徒の学習の定着状況ですとか、事業改善推進プランの成果を検証いたしまして、学びの連続性を促す教員の授業改善をさらに進めまして、今後の学力向上に努めていくということから、今年度の重点事項に位置づけております。

それから(8) 番のいじめ・不登校など防止対策の推進でございます。こちらはやはり安全・安心の学校づくりは非常に重要な対策でございまして、いじめや不登校の防止に向けた効果的な対策を講じていきます。

心理検査ハイパーQ Uの年2回実施、それらいじめ問題対策委員会の開催、さらには、各学校の学校いじめ防止委員会を中心に今、問題となっておりますスマートフォンによるトラブル防止、それから児童生徒が作成した SNS のルール、そういったものを各学校、児童生徒が作り、家庭でのルールを作成し、いじめなどトラブル防止や犯罪に巻き込まれないよう対策を重点的に進めてまいります。

それから(9) 番の特別支援教育の充実ですが、今年度からすべての小学校で特別支援教室を開設いたします。子供が、これまで通っておりました通級指導学級から先生が学校に通う特別支援教育へと細やかな指導を行うという、今年度からそういった取り組みを重点的に行っていくということが新たに加えております。

こうした9事業を重点施策といたしまして、今後、区長部局と教育委員会が緊密に連携を図り、取り組んでまいりたいと考えております。

それから最後になりますが、③番 平成28年度 豊島区教育委員会 教育目標(大綱)でございます。こちらにつきましては既に、教育委員会で決定しておりまして、この目標をもとに、4月から各学校で教育課程を作成しております。

その報告という形になりまして申し訳ございません。来年度の目標につきましては、今年度の総合教育会議でご審議いただきますので、ご容赦願います。

変わったところは、子供の「ども」という字がこれまで平仮名でありましたが、学習指導要領に基づきまして、「供」という字を漢字ということで変更してございます。

説明は以上でございます。

○高野区長

以上、豊島区の教育大綱（案）を事務局から説明させていただきました。それでは、菅谷委員長から順次、ご発言をいただければと思います。

○菅谷委員長

重点施策ということでございますけども、この項目を見ますと既にもっと以前からつながっている施策の中でさらに強調していくというようなことでございます。

この中で、特に（９）番の特別支援教育の充実は、先ほどご説明ありましたけれど、随分方法とか考え方が変わっておりまして、非常に前向きな変更かと思われまので、これに私は期待したいと思っています。

（１）番と（２）番の学校改修については、先ほども申し上げましたように、良いペースで改修が続いているということは非常にありがたいと思っています。

それから、東京オリンピック・パラリンピックに向けた教育の推進という中で、英語教育が入ってくるのではないかと感じています。これも実際に今、小学校や中学校の授業なんかを拝見していると、先生が全部英語で授業をやっているなど、非常に頑張ってるんですね。子供たちの英語の発表も、私が想像した以上に皆さん頑張ってやってくれていますので、こういったことが外国の方とのコミュニケーション能力といったところまで伸びていくんじゃないかと、これまで以上に期待したいと思っています。

それから、最後の教育目標の大綱です。

その中の最後の行に「すべての区民が教育に参加することを目指していく」と入っているわけですけども、これは大事なことだろうと思うのですが、実践するのはいろいろ課題もあるのかなと私は個人的に思います。

その中で保護者の方の参加を是非、これまで以上にやっていただけるといいのかと思います。学校、保護者の結びつきが非常にうまくいきますと、そこから地域の方を巻き込んでいけますし、先ほどのセーフスクールの認証についても非常に役に立つかと思えます。目標としては、区民の方に教育についてもっと関心を持っていただいて、みんなで豊島区の子供を育てるという大きな目標に期待したいと思っています。

○高野区長

それでは続きまして藤原委員どうぞ。

○藤原委員長職務代理者

私はやはり、重点施策の中の（６）番の「確かな学力」の育成という部分の表と裏の関係にあるのは、（８）番のいじめ・不登校等の防止対策の推進だと思います。

学力をいくらつけたいと思ってもいじめにあつて心が折れてしまう、あるいは不登校になって学校に行けていない、そういった子供には確かな学力の育成は望めないと思っています。ですから、コインの表と裏の関係でそういったところを両方きちんと教育でき

るよう、これからも進めてほしいと思っています。

あわせて特別支援教育ですが、やはりこれも同様です。同じ教室授業を受けるのは困難な子供がいます。今の大学でも、やはり特別な支援を要する学生がとても増えていて、各大学ではそういった学生に対する相談のポジションをつくっているらしいのですね。それくらい今、どこでもこの特別支援教育というのは大事にされなくてはいけないところですので、また、今年の特別支援教育の充実に大いに期待しているところです。

これらの重点施策を、区民の皆様に十分理解していただいて、学校も子供も保護者も皆で一体になって、豊島区の教育を盛り立てていけると良いなというふうに思っています。

○高野区長

ありがとうございます。それでは、樋口委員お願いします。

○樋口委員

教育大綱をこのようにきちんとおつくりになられ、ビジョンがその具体策として提示され、そして、昨年度第1回の総合教育会議を豊島区から発信したという、そこに大変敬服しているところでございます。今年度もこうして4月早々に会議があるというところは大変うれしく、私もここにいさせていただいてこうして意見を話すことができることに大変喜びを感じているところでございます。

学校の校長からすると、屋台骨がしっかりしているということは本当にありがたいことなんですね。私は学校教育の舵を取っている中で、豊島区のこの大綱のように屋台骨がわかるということは、後ろ盾をいただいたというふうに思っております。

先ほどの発信力の話につながってまいりますけれども、このような取り組みが学校だけではなくて、保護者や地域の方、ひいては区民の方にどのように発信されていくのかというところが、一つの大きなポイントかと思っています。

もう一つは学校長だけがわかっても取り組みは動きません。それぞれの学校の中で、先生たち一人ひとりがどれだけ意識をして、学校教育に携わっているのかというところが鍵であろうと思っておりますので、そこのところを注目して、また、足りない部分があったらお話を各学校でさせていただけたらと思いました。

○高野区長

最後に、北川委員お願いします。

○北川委員

先ほど、菅谷委員長から大綱の一番最後の「すべての区民が教育に参加すること」ということで、保護者に参加、関心を持ってもらう、地域の人に関心を持ってもらうというお話がありました。

私がPTAの会長をやってきたときに一番の悩みは、保護者でやはり学校に関心があるところとないところで家庭によって非常に温度差があったという点で、どれだけの人たちに学校に目を向けてもらうか、学校に足を運んでもらうかというところに非常に苦労いたしました。

まず、区及び教育委員会が地域の人たちすべてに学校の教育に目を向けてもらうための努力をしていただくというのは大変なことだとは正直思います。しかし、すべては子供たちに全部返ってくることでありますので、私たちが一生懸命力を合わせてこれからやっていくべきことだと思いました。

また、ちょっと話が戻りますが、先ほど小中連携の資料を拝見したところで庶務課長からの説明の中で、小中一貫教育連携プログラムに関しては、全小中学校が同一歩調で小中一貫教育連携プログラムの成果を生かした教育を目指してまいるという「同一歩調」という言葉をお使いになったのですね。それにより私たちはどこの学校に行っても豊島区であれば、同じような質の教育が受けられるということは非常に重要なことだと思っています。是非、そのところをこれからも追及して教育を行っていただけたらなと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○高野区長

ただいま大綱についても含めてそれぞれの委員の皆様からご意見をいただきました。

今日この総合教育会議では、その大綱の承認といえますか、この案を皆様方にご賛同いただければということが目的でございますが、第1議題、第2議題を含めながらそれぞれの委員からさまざまなご意見をいただきました。

その中で、どうしても事務局といえますか、教育委員会でお答えをしておいたほうが良い、あるいは是非お答えをというものはありますか。

○教育部長

委員の何人の方々から、「確かな学力」の向上ということで、全国調査結果で上位を維持していることについてもっとPRをすべきであるというご意見をいただきました。

保護者の皆さんも、やはり学力の向上について非常に認識高くなっております。教育振興基本計画である、教育ビジョン2015の策定に際して、保護者のアンケートを行っております。平成25年度に実施したアンケートを見ましても、学校に期待することの第一位は学力の向上となっております。

学力の向上にもっと力を入れてほしいという要望が小学校6年生の保護者、中学校2年生の保護者のトップにきているということを見ますと、保護者及び広く区民に対して、これだけ教育委員会が実践しているのだということアピールしていきたいと思っております。

また、宮田課長とは今年度協働いたしたいと思っております。トイレの大改修も出来るだけ早くといった視点も踏まえて、全国にPRしていきたいと思っております。

○高野区長

それでは、提案、説明していただいた庶務課長の方から何かお答えをお願いします。

○庶務課長

せっかく学力の試験の結果が良かったので、もっとPRしてほしいということで、私どもは教育だよりで全保護者には臨時号でPRしたところなんですけど、やはりまだまだ足りないと感じました。今後はホームページなど充実させて、さらにPRして保護者の方々、そして区民の方々にもPRしていくよう、ご指摘を踏まえて努力をしていきたいと思えます。

○高野区長

教育の一番のブランドづくりとはそれだと思います。これが皆さん、そして区民に認識されますと豊島の教育について非常に大きな評価をもらい、それがまさに豊島区の教育のブランドづくりにつながっていくのではと思います。それについては、本当に少し遠慮し過ぎたかと思われるのでこれから考えていきましょう。

学務課長の方から何かありますか。

○学務課長

がんの教育ですとか、歯と口腔の教育は大変先進的だというお褒めの言葉をいただいたんですけども、やはり役所の仕事の中で、教育は川上の仕事だなというふうに私は思っています。起きたことに対して対処するのではなくて、予防的に小さい頃から勉強してもらおうということはとてもいいことだと思っています。

私どもの仕事としては、子供たちの日常生活丸ごとですけれども、今後もそういった視点で関わっていければと思います。

○高野区長

学校施設課長をお願いします。

○学校施設課長

まず、トイレの話ですね。非常に要望が多かったのでできるだけ早く実現するよう努力したいと思えます。もう1点は、学力向上というのがありますが、それを支えるのが、学校施設というハードの面でございます。そちらにつきましては、私どもの方で特に努力していきたいと思っております。

○高野区長

指導課長をお願いします。

○指導課長

先ほど藤原委員からお話がありました学力向上といじめ・不登校の防止対策でございますが、児童・生徒が安心して学校に登校し、安心した教育環境の中で学ぶということは学力向上には重要な部分だと考えております。

また、自己肯定感を育むような学習を進めていくことが、確かな学力の向上につながるという結果もございますので、区の学力調査及びハイパーQUの結果を各学校で個々に分析させ学習環境をさらに高め、児童・生徒の自己肯定感、そして学習意欲を高めることを通して、確かな学力を高めていきたいと考えております。

○高野区長

それでは最後に、教育センター所長をお願いします。

○教育センター所長

豊島区の教育のブランドをつくる確かな学力の向上の土台となるのは、1つは藤原委員がおっしゃったように、特別支援教育の充実、そして不登校やいじめの対策ですが、特別支援の充実と不登校の部分に関しては、教育センターの役割は非常に大きいところでございます。

そして、このさまざまな問題には家庭の環境も非常にかかわってくる問題で、そこにはSSW(スクールソーシャルワーカー)の配置やもっと事業の充実をさせるというのは非常に大きなところですね。特別支援の教育は、保護者のさまざまな悩みでもありますし、それから家庭の貧困の問題、それから家庭環境や虐待までの問題を含めてすべての問題のコーディネートができるSSWの存在を教育センターとしてはフルに活用して、そして学力向上に努めてまいりたいと思っております。

○高野区長

ありがとうございます。以上、今日は本年度初めてでしたので、皆さんに話を振ってしまいましたけど、今の事務局のお話を受けて、教育委員の皆様、どうしてもこれはもう一度聞きたいとか、こういう提案があるなどございましたら、どうぞご発言をいただければと思います。

○菅谷委員長

先ほど取り上げてなかったのですが、小中連携という中で、幼稚園から少し始めようという話がありまして、ここのがですね、例えば、幼稚園児との関連は確かに教育委員会の中でやっているのですけど、豊島区の場合、非常に保育園の数が多いわけです。

保育園で実際、その方たちとのつなぎを考えていかなければいけないという点が今後の課題だと思います。幼・少の幼のところに、保育園の方達のことでも少し考えていく必要があるのかと思っています。

○高野区長

その件は、最後に教育長からお答えをお願いします。ほかにございませんか。

特に北川さんは、地域のことを非常によくお分かりだし、やはり地域との連携が一番基本的なことということで、今後ともよろしくお願いします。

教育大綱について、皆様方からご意見をいただきました。

それでは、豊島区教育大綱（案）、「教育都市としま」の高峰に挑むこの大綱について委員の皆さんからご賛同いただければと思いますけど、よろしゅうございますか。

《委員より賛同、承認する。》

○高野区長

豊島区の教育大綱につきましてご承認をいただきました。ありがとうございます。

以上で、今日の議題は終わるわけでありまして学校のトイレ改修について少しお話しします。教育委員の皆さんから非常にトイレの問題について高い評価をいただきました。これをやはり決断するにはいろいろ難しい問題があったわけでありまして。

これから3年で大体20数校を直さないといけない。残っているところはいろいろな事情があるということで、なかなかお金を出してすべてやれるかといったらいろんな今までのルールを飛び越えてやらないと、3年間で仕上げるというのは、私は2年、出来れば1年間でもと言ったんですけど、どんなにお金を掛けてもできませんよということでした。条件等々の縛りがありましたので、これについては本当に最大限できる範囲内のということで、このような決断をすることによって、非常に、各委員からの高い評価をいただきました。

これはやはり教育委員の皆様の強いご発言に対し、私としても決断をしたわけでありまして、ちなみに今年度6校改修するのに約5億円かかるんですね。大変大きな数字ですけど、そこまで踏み切るといのは、それだけ期待に応えられるものをつくっていくことでもありますので、ですから、ほかの予算を割いてでも、これに集中したいということでもあります。今日も皆さん委員の評価というものは非常に高く、今回の大綱にもありました特別支援教育等々にもですね、いろんな面でメリハリのついた支援をしていかないとそんな思いをしております。

私の感想を含めながら、皆さんのご意見を一つずつ分析しながらですね、最後に三田教育長の思いをお話してください。

○三田教育長

ありがとうございます。

大勢の皆さんからたくさんの発言をいただき、これをまとめるのはなかなか至難のわざなのですが、まず冒頭からお話しします。

昨年の4月8日にこの総合教育会議がスタートを切って、ちょうど1年ということでも冒頭に区長よりお話がございました。まず第1点目としてお伝えしたいことですが、この総合教育会議が高野区長のイニシアティブで進められ、その場で決定し、実行していくという熟慮実行型の総合会議として1年間定着してきたのではないかという点です。本当に高野区長の先見性とイニシアティブの発揮の素晴らしさということで、改めて感謝申し上げます。

また、先ほどトイレの話がございましたけども、これまでもICTの問題や学校図書館の問題、いじめ対策についても、豊島区が大きな成果を上げている背景のバックグラウンドには、高野区長と教育委員会とが一致した線で進めてこれたということがあったということも改めて今日感じまして、ここでお礼を申し上げたいと思います。

それから2点目として、教育委員会の議論についてでございます。

本区の教育委員会では、1回の平均討議時間が大体3時間から3時間半ぐらい行っており、これほど熱心に議論している委員会はないのではと思っております。一つの案件についても、委員長にも配慮をいただき、皆さん必ず発言する形で進行しており、様々な意見をいただいております。そういう議論がこの教育を生み出してきたというふうに考えておりますが、この総合教育会議では、またさまざまな見方からの意見があることを改めて感じました。

ですから、こういう総合教育会議の場で、視点を変更して整理し、改めて切り込むということがすごく大事だということを私どもは学ばせていただいたと思っております。

次に、今日の課題個別のお話をさせていただきます。

一番大きな点として、発信力が足りないということを高野区長からもご指摘いただき、こんなに学力が高いのになぜ宣伝しないのかという話もありました。

勿論、宣伝はしておりますが、外に見えていない、あるいは見えづらいという問題があるかと思っております。この点については、私は今年の1月にも、「発信する教育委員会」と事務局に伝え、昨年度から責任者として、教育委員会事務局の体質改善をいろいろやってきております。

例えば、教育だよりの予算は事務局として3回分の確保しかしておりませんでしたので、3回の発行しかできないというような考え方をしていたんですね。

私はそれに対して、庁内印刷でもいいから補充してやりなさいと話しました。それで補充して発行したのが、先ほどの学力テスト結果の発表なんです。

他にも、私は豊島テレビからの出演依頼を多く受けておりますが、「発信する教育委員会」としていい機会だと捉え、区の教育施策について数多く発表しております。これを活用していただければいいのですが、何回か使ったらそれで終わり、なかなか学校に活用

してくださいという周知徹底ができていないんですね。

言ってみれば、時代の変化や社会の変化には敏感に対応しているのですが、それをフォローする体制がまだまだ不十分だと思っております。やはり事務局としても、良いものをどんどん発信してくという点で、違った視点を持ってやっていただきたいと思います。

例えばホームページに関して、教育委員会のページで変えるべきところが全然変わっておらず、テンポが非常に遅く、時代の変化に合っていない。

それから今日も話題にしたのですが、一般の若い世代や区民のレベルでいうと、区報や教育だよりを紙媒体だけではなく、スマホなどいろんな媒体を使って見ているのではないかと思います、その点への対応もできておりません。

そのような工夫をこれから行い、区長部局と連動しながら発信するというのを考え、体質改善をしっかりとやっていかなければいけないなということを改めて感じました。

情報発信につきましては、樋口委員からも学力が高くなっているというのは、具体的などのような努力をしているのかという点を分析し、周知した方がよいというご指摘がありました。

この点につきましても、どのような努力をしている学校の学力が向上しているかという点を、各学校に情報を返しております。

例えば家庭学習をしっかりと行わせ、定着してきた学校や、授業改善で問題解決学習が定着した学校は学力が伸びております。研究発表で十分成果をあげている学校も、幹部になるような良い先生が育ち、どんどん学力が伸びております。

ただ一方で、それらはまだまだコップの中の波という感じなんです。

ですから、もっとみんなが工夫し、英知を発揮してここまで来た、その取組を共有していかなければいけないということで、私はこの間、各校長先生方に校長会で様々なことを話しております。

例えば学習指導要領や教育ビジョンには、前向きな方針が出ていて、これから変えられるということをしっかり打ち出していますが、学校の先生が最終的にはそれを実践していくことが大事であり、実践がなければ何も変わらないという点。

また、校長先生が教育施策を有利に使って、学校経営をどのようにうまく進めていくかというカリキュラムマネジメントを率先して展開し、先生方に叱咤激励しながら、子供には学びがい、教師には教えがいを持てるような授業展開をしてほしいというような話をしています。

まさにこの点が今課題であり、これから本気で勝負をかけて、次は秋田を越していくという、そういう気持ちでみんな挑んでいかなければいけないと思っております。

次に、特別支援教育のことについても申し上げます。教育センターは所長が新しく鮫島所長に変わりました。先日、私も教育センターの方に伺ったところですが、こちらの事業の就学相談が一番大変なんですね。

特別支援教育と判断されても、保護者の方が普通学級に普通児として入れてほしいと

いうことで、検査にも応じてくれない場合がございます。非常に難しい状態が続き、学級崩壊にもつながるという事例がたくさんありました。ところが、平成27年度の活動では、90%の方に同意をしていただき、特別支援教育を受けるというふうになってきています。だから今はそういうことで学級崩壊しているところが少なくなったといえますか、ほとんどないんです。

これも教育センターの前所長の頃から、素晴らしい努力でずっと積み上げてきたものが、現状を変える大きな要因になっています。私は特別支援教育がこれからも大きく変わってくるという期待を持っておりますので、こういう指標をもっと宣伝をして、学校にも励ましてやっていく必要があると思っております。

最後に、トイレをはじめ学校施設のことで。様々の課題も出てきてはおりますが、着実に新しい21世紀にふさわしい校舎ができてきております。8月から12月にかけて、池袋本町地区校舎併設型小中連携校と、池袋第三小学校という三つの学校が同時に完成するという状況で、これもやはり高野区長はじめ、区長部局の並々ならぬバックアップがあって進められることだと思っております。ハードは区長が、ソフトは私たちがしっかりと担っていかなければいけないということで、いつも言っているのですが、仏を彫って魂込めるといふことですね。教育委員会の重要な命題にしてこれからも頑張っていきたいと思っております。以上でございます。

○高野区長

ありがとうございました。

最後に少し、ご承知のとおり熊本の地震が大変な被害ということで、これに対する本区の対応について報告したいと思います。たまたま私が熊本市長さんと大変親しくしておりまして、今の被害があつて2日目頃に被害状況はどうかという話をしたときに、水とか食糧とか毛布等々は救援物資が一遍にくるから、大至急豊島から送って来てくても届くの何十時間かかるのでそれは心配なくということで、一番ほしいのは、建物が崩壊して、その建物が使えるか使えないかという、建築の技術職、危険、建物の倒壊判定ができる資格を持っている人ということでした。

幸い区は52名もそういう資格を持っている職員がおりまして、すぐ、これは熊本市長の強い要請で、4月18日には職員を派遣いたしました。

行ってきた職員が帰ってきて、次の職員が代わって行くのですが、非常に喜ばれ助かったという、今日も市長さんとの電話連絡で本当に豊島区の素早い対応に心から感謝するという言葉をいただきました。

豊島区がこれから次に何をやるかという形の中では、本区は、人的支援それから物的支援、そして、義援金の募集等もすでにやっておりまして、それらについては、日赤に今までいただいているものを送るわけですけど、熊本市民のシンボルである熊本城の修復、これは本当に市長さんをはじめ、関係者の方に熊本の方がいますと、熊本城が崩れていくのは本当に涙が止まらない、我々のやはり顔であり、市民の心のシンボルだと。これを何とか大

変な時間もお金もかかるけど、これをやはり一刻も早く修復をしていかなきゃいけない、これが私たちの思いですよという話を聞きましたので、もちろん熊本あるいは大分県には日赤がそれぞれ支援をしますけど、市もそういう形の義援金をお預かりしていますけど、豊島区独自で熊本城修復豊島支援金という形ですね、いよいよ明日から募金に入りたいと思っております。豊島区の庁舎をはじめ、あらゆる施設に熊本城修復の豊島区の支援金という形で、大キャンペーンをやりたいと思いますので、その辺をご理解をいただき、これこそ、豊島区は文化芸術創造都市として、地域文化の継承、発展に取り組んできたわけでありまして、熊本城はまさに熊本市民が誇る地域文化の支柱であるとともに、日本が誇る貴重な文化財ということでもありますので、復興に向けて、豊島区の今回の取り組みがきっかけとなって、全国に支援の和が広がっていくということに、期待を込めたいと思います。一自治体としてこういうのをやるのはおそらく初めてだと思います。こういう支援の和が全国に広がっていけばと、そんな思いで明日からスタートしますので、報告させていただきました。どうぞよろしく申し上げます。

それでは以上をもちまして、今日の28年度第1回の豊島区総合教育会議を終わらせていただきます。

ありがとうございました。